

鹿児島県現代俳句協会会報

種蒔から餅搗まで

園田 千秋

十月の下旬、兄弟姉妹六人が揃つて、今年の取り入れが終わつた。兄弟姉妹での作業が、年に五回ある。種蒔・田植・稻刈・脱穀・餅搗である。そして、正月の年始会となつて、兄弟姉妹や孫やひ孫の集合に繋がる。かつての農業を支えた『結』の感覚が残つてゐるのかも知れない。年老いた母への親孝行の一つなのかも知れない。これらの作業には、孫たちやひ孫たちも参加することがある。

こうして、生活文化は伝承されていくのだろうが、作業効率を優先した機械化や経済活動優先の観点から、農業のありようは大きく変化している。そのため、自家用米の栽培は廃れる一方だ。自家用米の栽培の手数・機械や肥料や薬剤の購入費などを考えると割に合わない。米を買つた方が安くつくという現実がある。それよりも、私がもつと気になるのは、変化のスピード化により、生活文化が伝

承されにくくなつてゐるという現実だ。例えば、田植の時の早苗取という作業は、行われない。田植機に合わせた苗作りが行われるから、早苗取・早苗束・苗籠・早苗舟などの言葉は、死語となつて、生活の中から消えてしまつた。

ところが、早苗取や早苗束などの言葉は、今でも合本俳句歳時記にもホトトギス俳句季題便覧にも採択されている季語なのだ。これらの季語を、具体的にイメージできる俳人がどれくらいいるのだろうか。田仕事にも、今や死語となつてゐる言葉が、たくさんある。田搔牛・苗代・種浸し・田植歌・稻舟・稻打ち・餅筵などいくつも取り上げができる。

これらの言葉を用いて俳句を作つたとしても、読者には伝わりにくい俳句になつてしまふ。イメージできない言葉を用いているからだ。季語としての必要性があるのかといふことにもなる。季語と第44号
2021・11月

発行人 高岡修
編集人 園田千秋
事務局 鹿児島市郡山町二二五九一三
〒891-1105 Tel (099) 298-1480
印刷所 有限会社アート印刷

して存在するのではなく、国語辞典に生活文化史を示す言葉として存在するほうがないのではないかなどと考えてしまふ。そんなことを考えながら、歳時記の生活の部をめくつてみると、現在とはイメージの異なる季語も存在することに気づいた。草刈や渡り魚夫や社会鍋という季語の解説を読むと、現在の感覚、私の抱く感覚とは随分違うのだ。

社会は年々変化してゆき、変化のスピードは早くなつてゐるのだが、歳時記は、結局、歳時記を監修した人のイメージを述べたもので、季語になつている言葉の監修された時代のイメージを述べたものだとと言えよう。もちろん、変わらないものもあるのだが、歳時記等に記されていることを前提に俳句を作れば、俳句は自由を失つてしまう。俳句(文芸としての俳句)を作ろうと考える人は、季語(ことば)に対する自分なりの、イメージを持つこと・自分の歳時記を持つことが大切なだろう。

脱穀機のドラムの弾く音を聞きながら、そんな事を考えていた。

令和二年度
鹿児島県現代俳句協会
新春俳句大会

令和二年度
第二十九回
藤後左右忌俳句大会

令和二年度
篠原鳳作忌俳句大会
令和二年九月二十九日
フ ラ ワ 一 パ リ ク か ご し ま
投 句 数 一〇〇 句

令和二年二月二十五日

パレスイン鹿児島

投 句 数 八十六 句

大会賞

星になる予定は未定亀鳴けり

藤原 壽子

優秀賞

かぐわしき冬の銀河という奈落

耳成 保一

離人形青空と言う私服あり

磯辺 正悟

みずかきの薄き君らをすみれ野に

末吉 優子

うすつぺらな仮面剥ぎとる寒の月

愛甲 敬子

マスクの目死体横目に通過する
アマリリス宇宙を抱く音色もつ

春田眞未子
假屋園いつ子

淋しさを蝶に羽化してミルクティー
この川の螢増やして男逝く

国生 まや

人間の音だけがする初日の出
暉峻 康瑞

國生 まや

図書館の森入つたらもう出られない
徳森 凉子

山下 久代

春泥に植えてみましよう君の名を
永劫に触れ角を引く蝸牛

堀口 良子

高岡 修

藤後左右賞（大会賞）

舌の上言葉の卵が昼寝する

磯辺 正悟

鹿児島県現代俳句協会賞

紫陽花の水溶性の花言葉

山下 久代

鹿児島県俳人協会賞

水無月や君とのきよりを目ではかる

藤原 壽子

南日本新聞社賞

たましいを抜いて五月の野へ放つ

耳成 保一

アマリリス宇宙を抱く音色もつ

假屋園いつ子

シャツ絞れば空あおあおと滴る

百瀬 光里

非行児のやどかり今日の殻を脱ぐ

秋山 青松

マゼラン星雲ともしひとしてからすうり

園田 千秋

竹林で濾過した我を持ち帰る

橋口 等

鳳作忌 母語の海鳴りならび立つ

僕はまやかし心というレプリカ

南園 美基

篠原鳳作賞（大会賞）
月光の一度は死にし人の貌

鹿児島県現代俳句協会賞

花野幻想ひとが壊れてゆく都心

桜井 光風

鹿児島県俳人協会賞

鳥として言の葉の円心にいる

山下 久代

鹿児島県現代俳句協会賞

高岡 修

鹿児島県現代俳句協会賞

深海の珊瑚を目指し流れ星

山下 久代

鹿児島県現代俳句協会賞

原罪の瘡蓋のごと秋の雲

宮永 武彦

鹿児島県現代俳句協会賞

シヤツ絞れば空あおあおと滴る

秋山 青松

マゼラン星雲ともしひとしてからすうり

橋口 等

僕はまやかし心というレプリカ

南園 美基

春泥に植えてみましよう君の名を

永劫に触れ角を引く蝸牛

山口 維心

夕焼けを芯に白帆をたたみけり 流星群父の知り合いいるかしら	小川 莎良	稻元 幽林
子らの語る未来を聞こう原爆忌 今年の二句（令和二年度）	山下 裕子	小屋敷ちあき
「～」	伊之口鳳洲	日差しが砥石をすべり夏となる ケセラセラ時をくぐりて枯尾花
趣味雑多何も残さぬ雪椿 照葉喰む知のかたまりの渡り鳥	稻元 幽林	ラ・フランス夢の奢りを囁り切る
破鏡拭く血を香らせて薬指 浮き方の解らぬ詞海 溺死する	宇都宮華水	辰月の思考停止は有罪か
春愁を吐いては雲に置くキリン 何処よりか人湧き出づる桜かな	愛甲 敬子	封鎖都市なにか静かに春の塵 耳奥にジュラ紀絢爛たる地鳴り
野火の五代目末裔曼珠沙華 孤独ならふらここ一基を相続す	秋山 青松	初光り納屋の農具の静けさに この道を信じて土と生きて春
安部知菜美 かなかなやここはプラスチックの森 種なしの果実の孤独月煌々	大田府二子	佐野ふみ子
磯辺 正悟 深海の古書店にいる冬帽子 舌の上言葉の卵が昼寝する	假屋園いく子	白く濃く生きよと諭す雲の峰 秋彼岸 定価10円亡母の古書
市川 陽子 桑鶴 翔作 小雨に酔うクチナシのつけまづ コートの裾に降りしきる霜月の邂逅	川寄 弘子	鮫島 洋子
永久という霞のようなカーテンある	久保うめ子	昭和遠し風呂敷は抽斗の底に 蟻の列無番地の胎内へ急ぐ
この星の春や不穏のゆで卵 聴くといふ祈りあるべし星月夜	新宅 和正	秋風にそよぐコスモス若き日を 悠然と流れに任せ鯉の群れ

きさらぎに亡母のブローチ付けてみる
杉山 武子

狭庭には足音を待つタンポポが居る
遠い日の足跡消せぬ雪の街
徳森 涼子

香を焚く暮らしになじみ春立たり
非行児のやどかり今日の殻を脱ぐ
園田 千秋

線路ぞい三〇〇〇本のかのこゆり
蟻蟻の動きにみとれ我一人
高岡 修

「密約さ」蝶の臓器の売買は
戦争と人魚が濡れている真昼
賞雅 征子

阜月咲く淡く律義な亡母便り
森のカフェ寄り添う夫婦秋を酌む
富迫 吉博

たくましき刺に抱かれ薔薇の芽よ
風死して置き処なき夕間暮
田中 聰

おとなしい彼女にひとつ初茜
美しい単語が眠る冬木立
西野 康子

影を帯び朝日に帰る金の竜
言葉の雨アーケードを傘さしていく
地球儀にげんげのあふれ登校日
窓開けて立夏の風と家ごもり
中馬 雪弥

むかし虹だつたのよ溢れる言葉は
胡蝶蘭羽を求めて咲きつづて
コロナ忌や「はやぶさ」帰還する大地
コロナ忌や大陸緒く海蒼く
橋口 美代子

五七五の言葉にたどる生の四季
夕焼けに父母のまなざし流れゆく
暉峻 康瑞

すみれがそよぐから無くしたものは数えない
たんぽぽは器量よしだと土筆がすねる
鳩野 静香

人間に鍵かけ桜に逢いにゆく
僧ひとり銀河をわたるランプかな
人間

終電車 冬のはずれで席を立つ
木漏れ日を拾つて帰る紙袋
堀口 良子

窓際の母を横目に雪が踊る
歳月に話しかけるも風が消す
原之園厚子

草を摘む一本ずつ摘む夕焼ける
冬陽さし心の熾火照らし出し
鳩野 大吉

山の水ゆつくり束ね春のみず
恋螢約束はあと三分ね
春田眞未子

春月へ言靈あふれ愛あふれ
葉牡丹やほどきほどかれゆく余生
春田理恵子

舞姫の立ち居あてなる寒椿
さくら谷亡き人と鬼入れ替わる
肥後 洋子

身の中に鉄柱たてたが光りやめている
籠の葉の黄色目立たせ風荒れる
橋口 美代子

水無月や君とのきよりを目ではかる
星になる予定は未定亀鳴けり
藤原 壽子

立春とふあやしげなもの来ておりし
凍蝶よその枝君にあげるから
堀口 良子

北郷
萌祥

探梅の時の隙間に身を隠す
藤時雨かをり残して我に問ふ

前田
霧人

数え日の裸電球が切れる
たたまれて火の島となる花衣

山下 章江

逢いたいね「秋がきらい」と言う人に
岬に立ち心中のぞくえらぶゆり

山下 久代

春愁と書いて私を水とする
わたくしは滝の心に由来する

四月号 春田理恵子
私だつて私だつて血を噴く敷椿
五月号 桜井 光風

死はいつも緩慢にして沙羅の花
六月号 国生 まや
寂しみを剃るように咲く山ゆり

七月号 愛甲 敬子
あの事は切り出せぬまま遠花火

八月号 百瀬 光里
尉鶴夢を見よとて月のかげ

九月号 輝峻 康瑞
木の国の木の寺に生まれ満月です

十月号 秋山 青松
二〇〇グラムのわが淋しさよ蝶の秋

十一月号 假屋園いく子
〔北〕といふ一文字揺れて冬スミレ

十二月号 山下 久代
愛憎も白紙に認め十二月

梅林の奥へ奥へと亡母が消える
春一番途切れ子の闇父の闇

山田 良子

稻光に心の底まで見透かされ
開けた窓縁の光流れ込む

耳成 南園 美基
美しい水を飼う昏睡の病室
幾多の服脱ぎ父は今、白い炎

和田 明子
カザロスのチエロと旅ゆく島の歌

瞳夜の心の瓶に黄水仙
瞳の中に届けましょか春ランチ

百瀬 光里
産み落ちるものは生と死蟬の衣
悪戯を消さずに帰途へ短き日

和田 優子
青き夜のわが惜春の恋衣

転がして闇削りゆく冬満月
春の空より微かかる兜太の鼾

柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

愛甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

山口 維心
一錠の凄惨に春染みついて
花の死がそつと水辺を生けている

肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

山下 久代
春愁と書いて私を水とする
わたくしは滝の心に由来する

柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

愛甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

「列島春秋」 (地区別現代俳句歳時記)

第十一回 現代俳句の風より

一月号 白澤 良子
初夢のいのちしづかに浮き上がる

二月号 宇都宮華水
天空の君のキッスか頬に風花

三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

四月号 春田理恵子
私だつて私だつて血を噴く敷椿

五月号 桜井 光風

死はいつも緩慢にして沙羅の花

六月号 国生 まや
寂しみを剃るように咲く山ゆり

七月号 愛甲 敬子
あの事は切り出せぬまま遠花火

八月号 百瀬 光里
尉鶴夢を見よとて月のかげ

九月号 輝峻 康瑞
木の国の木の寺に生まれ満月です

十月号 秋山 青松
二〇〇グラムのわが淋しさよ蝶の秋

十一月号 假屋園いく子
〔北〕といふ一文字揺れて冬スミレ

十二月号 山下 久代
愛憎も白紙に認め十二月

十三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

十四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

十五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

十六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

十七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

十八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

十九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

二十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

二十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

二十二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

二十三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

二十四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

二十五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

二十六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

二十七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

二十八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

二十九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

三十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

三十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

三十二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

三十三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

三十四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

三十五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

三十六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

三十七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

三十八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

三十九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

四十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

四十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

四十二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

四十三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

四十四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

四十五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

四十六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

四十七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

四十八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

四十九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

五十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

五十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

五十二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

五十三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

五十四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

五十五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

五十六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

五十七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

五十八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

五十九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

六十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

六十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

六十二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

六十三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

六十四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

六十五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

六十六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

六十七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

六十八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

六十九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

七十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

七十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

七十二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

七十三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

七十四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

七十五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

七十六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

七十七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

七十八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

七十九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

八十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

八十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

八十二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

八十三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

八十四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

八十五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

八十六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

八十七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

八十八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

八十九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

九十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

九十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

九十二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

九十三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

九十四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

九十五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

九十六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

九十七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

九十八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

九十九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零十二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零一二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零一二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零一二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零十一月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零一二月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零三月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零四月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零五月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見の日傘高く差す

一百零六月号 爱甲 敬子
初霜をお日様が踏む枯れ野原

一百零七月号 宇都宮華水
恋ごころ思い出させる秋月夜
天空の君のキッスか頬に風花

一百零八月号 下原 培子
冬日向オリーブオイルの溶けそくな
齡殖ゆすずなすずしろ溶けだして

一百零九月号 肥後 洋子
それ以後の失くて母がり紫木蓮

一百零十月号 柳田富美子
美しや脳内血管のCT画
風入れて形見

第十二回 現代俳句の風より

肥後 洋子

万緑の中の一閃ピカソの目
青北風が吹いて少年に帰心はや
レモンの月雲を疾らせ異邦人

末吉 優子

はつなつの扉とは君忘れ貝
月光をただ抉りたき銀の匙

現代俳句協会 新入会記念作品

桜井 光風

春おぼろ未来の見えぬ眼鏡拭く

春田理恵子

大海の鯨に青き夜寒かな
魂の火の腑の無数鳥渡る

森井省二感銘十句抄

松下 けん

南園 美基

金木犀どこにもい私の子
六月の絵はナミダいろを使い切る

西野 康子

君の掌に蝶わが胸の爪を切る
有機体です花を愛で軋みます

愛甲 敬子
自由といふあやふやを生きかたつむり
月光の鍵もて開ける秘密基地

下原 培子

『現代俳句年鑑2020』を読む

森本突張感銘の一旬

末吉 優子

少年は初蝶の舌隠し持つ

北村量子感銘十句抄

秋山 青松

春月夜鬼がつまびく地平線

茂野勝感銘十句抄

假屋園いく子

◇令和二年の後半からは、コロナウイルス発生のために、いろいろな俳句会が、中止になつたり、紙上俳句会になつたりしましたが、鹿児島県現代俳句協会主催の俳句会は、実施することができました。会員の皆様の協力に感謝致します。

◇第45号は、令和四年の五月に発行できるように心を入れ替えて望みたいと思ひます。どなたか巻頭言（隨想）を書いていただけないでしょうか。

山下久代著
「かごしま愛の言の葉2019」
二〇二〇年三月 ジャプラン刊

高岡修句集「凍滙」
二〇二〇年七月 ジャプラン刊
輪郭を溶かして薔薇のシンフォニー

西野康子句集「薔薇のシンフォニー」
二〇二〇年七月 ジャプラン刊
輪郭を溶かして薔薇のシンフォニー

鈴木五雨感銘十句抄

春田理恵子

（園田千秋）

落花とは空裂く力花の乱